



全難聴便り

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集：全難聴事務局
電話：03(3225)5600
FAX：03(3354)0046
URL：<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail：zennacho@zennancho.or.jp

📌 全難聴決算理事会開催（5月18日）

平成26年度第1回理事会（決算承認理事会）が戸山サンライズにて開催されました。担当理事による25年度の事業報告がなされ、決算に関して個別の審議がおこなわれました。これらの事業報告、決算は、6月7日に開かれる協会の代表が集まる平成26年度第1回通常総会に提出、付議されます。

理事会では、貸借対照表、正味財産増減計算書などをもとに、個別の分野に関し、事業としてのありかたについてまで突っ込んだ話し合いがなされました。

また、今年度は全難聴理事改選の年に当たります。すでに立候補の届けをお寄せいただいている理事、および推薦理事についての話し合いもなされました。

上記に加え、新規加盟協会に関すること、ロゴマーク使用規約などについて議案として提出され、それぞれ了承されました。

平成26年度第1回通常総会は、6月7日に場所は同じく戸山サンライズにて、正会員である加盟協会の代表者の方々にお集まりいただき、開催します。

翌6月8日には、理事・監事就任受諾書依頼等の諸手続きのあと、新たな理事の陣容による理事会が開催され、26年度の基本方針について、今度は具体的な話し合いが行なわれます。

📌 第20回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 三重 分科会概要

10月25日（土）・26日（日）・27日に開催されます福祉大会 in 三重の準備が着々と進んでいます。現在事務局で把握している概要をお知らせします。

記念講演は、AJU専務理事 山田昭義氏です。

分科会概要は以下のとおりです。

○ 第1分科会（情報文化部）

「手書き文字通信、音声認識、こうすれば使える！！～あなたが主役！会話支援機器・UD手書きを活用して、仕事に地域活動に楽しく使おう！～」

○ 第2分科会（要約筆記部）

「要約筆記者派遣事業の現状と厚労省モデル実施要綱の示す方向性～自分たちの地域で、協会でどのように変えていくか～」

○ 第3分科会（女性部と制度改革）

「難聴女性の差別解消を考える～人間らしく生きるために、障がいのある人もない人も共

に支えあえる社会にしよう～」

座長 新谷副理事長

講師 大谷恭子弁護士

パネラー 宇田二三子さん

羽田野裕子さん

○ 第4分科会（補聴医療対策部）

「『聞こえの健康支援センター』構想を深めていこう～難聴者の社会参加のために必要な医療・福祉・教育などの支援とそのあり方を語ろう～」

筑波技術大学名誉教授 大沼直紀氏

弘前医療福祉大学 氏田直子氏

○ 第5分科会(高年部)

「まるごと三重を体験しよう～三重の観光バリアフリーの取り組みと伊勢型紙の体験」

座長 日間賀恵子さん（三重難聴）

パネラー 三重県観光政策課職員（観光バリアフリーの取り組み）

三重難聴副会長 藤谷弘晃さん（三重難聴の熊野古道バス旅行）

全要研三重県支部事務局長 仲野さく江さん（バス旅行の情報保障など）

伊勢型紙体験 実際に伊勢型紙を作っていただきます。

☆観光（予定）

○伊勢神宮内宮参拝

（昨年遷宮で新しくなったお宮を観光ボランティア付きで案内）

○おかげ横丁散策

○昼食 伊勢の郷土料理

○バスはパソコン要約筆記と磁気誘導ループを設置します。

👉 遠隔文字情報保障の現状

今年の1月、全国福祉大会 in 沖縄では遠隔入力による文字の情報保障が行われました。

通訳の現場で情報保障を行うPC要約筆記とは別なかたちで、遠隔による情報保障を提供する方法やその技術の向上に、いくつかの団体、組織が努力を続けています。

その中の3社についてご紹介します。

まず、沖縄福祉大会の情報保障を受け持ったアイセック・ジャパンです。



【アイセック・ジャパン】

モバイル型遠隔情報保障サービス（eーミミ）を展開する沖縄県うるま市を拠点とする新進のITベンチャー企業。全難聴福祉大会 in 沖縄では分科会の情報保障を担当。分科会参加者は自身のスマートフォン、iPadなどに文字情報を受信して会議に参加することができた。

自治体で行なわれる議会、企業の会議、学校教育の場面での遠隔文字情報保障に加えて、結婚式や観光バスなど今まで情報保障が行い難い場所での遠隔文字情報保障など数多く手がけている。

また、日本財団の電話リレーサービスの事業者として、文字チャットによる電話リレーサービスも実施している。

この他に沖縄の雇用創出に向けた取り組みの一環として就業支援としてのIT技術講習を一般向けだけでなく聴覚障がい者向けにも行っている。

【CS 障害者放送統一機構】

阪神淡路大震災の経験を踏まえて全難聴と全日ろう連が中心となり設立された。2000年のシドニーオリンピックでの字幕放送を皮切りに、CS放送「目で聴くテレビ」としてリアルタイム字幕放送番組を提供、TV放送への文字情報保障も行っている。また、会議、フォーラムなどでの文字情報保障も積極的に取り組む。

遠隔地でオペレータが文字入力するRCSS(遠隔地字幕支援システム)に特徴があり、近年では韓国インチョンで開催された「障害者の権利実現のためのインチョン戦略会議」での情報保障もそのシステムを活用。

リアルタイム字幕を行う体制としてサーバーを国内外に分散し、また対応する文字入力者も全国に配備していることから、災害対策放送へのリスク分散対応が進んでいると言える。

最後は、長野県のサマライズ・センターです。

【NPO 法人 長野サマライズ・センター】

塩尻市を拠点とする遠隔文字情報保障のパイオニア。

聴覚障害児童へのモバイル機器を使用しての文字通訳に定評あり。ITBC2（インターネット経由で文字を見るためのソフトウェア）を活用した遠隔情報保障スタイルを確立している。

活動内容

- 現在、全国24都道府県（北は秋田県、南は福岡県まで）で主に初等中等教育現場の聴覚障害児の授業支援の制度化を目指した、遠隔支援システムの体験事業・支援者養成事業・講演会を開催中。

昨年度の支援活動を通して、2中学校で支援が実現。

Facebookなどを通して、聴覚障がい児保護者の相談を受け付けている。

- 朝日新聞東京本社の見学コースにて、毎月第3金曜日、聴覚障害者コースの遠隔文字通訳を定常的に担当中。
- クラウドファンディングを活用して、認定NPO法人の取得を目指す。（現在、仮認定NPO申請中）



「里ミミ」プロジェクトサイトより

↑ 理事の動き (5/1~5/31)

- 5月12日 総務省地上放送課長との面談 (高岡、小川)
- 5月13日 JDF 条約小委員会 (新谷)
- 5月14日 JDF 拡大企画委員会 (佐野)
- 5月15日 ウェブアクセシビリティ基盤委員会 (小川)
- 5月15日 スマートテレビ時代における字幕等の在り方に関する検討会 (高岡)
- 5月18日 全難聴決算承認理事会 (理事、監事)
- 5月22日 国土交通省要望書提出 (小川)
- 5月25日 川崎市情報文化センターまつり特別講演 (高岡)
- 5月26日 JDF 幹事会 (新谷)
- 5月27日 リハ協理事会 (高岡)
- 5月27日 厚労省第11回改正障害者雇用促進法指針に関する研究会傍聴 (新谷)
- 5月27日 放送協議会3委員会合同会議 (高岡)
- 5月30日 情文センター評議員会 (高岡)

国土交通省に要望書提出

2014年5月22日(木)
韓国での船舶沈没事故を踏まえ、客船での情報提供について音声以外での対応を求める要望書を、国土交通省安全政策課船舶安全基準室宛に、小川理事が全難聴を代表して提出しました。

↑ 事務局報告

- 5月7日 新役員立候補〆切日
- 5月9日 理事会議案書発送
- 5月17日 監査会
- 5月18日 全難聴理事会
- 5月21日 総会議案書発送
- 5月22日 国土交通省要望書提出
- 5月31日 全難聴だより No. 72 発行

《予定》

- 6月2日 JDF 代表者会議
- 6月4日 視聴覚障害者関連4団体勉強会
- 6月7日 全難聴総会
- 6月8日 全難聴臨時理事会
- 6月12日~15日 全国ろうあ者大会 in 長野
- 6月18日 JDF 拡大企画委員会
- 6月19日 日本補聴器販売店協会総会
- 6月21日~22日 第32回全要研集会 in 石川
- 6月25日 JDF 幹事会
- 6月26日 NPO 法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会 in 長崎
- 6月30日 全難聴だより No. 73 発行予定

難聴者体験談集発刊へ

加盟協会の会報の中から選んだ難聴者体験談をまとめた書籍を発刊します。

書籍の題名は「冬芽を思う」。長崎県協会の見陣さんの文章よりいただきました。装丁の挿絵は横浜市協会のご協力をいただきました。

夏までの発売を目指しております。

